

博物館からのお知らせ

再開館のお知らせと 今後の博物館活動について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館していますが、7月1日（水）から再開館する予定です。ただし、8月31日（月）までの講座・講演会などのイベント、博物館友の会主催の講座・講演会については、すべて中止いたします。団体予約の受付も中止しています。

最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式Twitterでご確認ください。

休館中も電話やメールによるレファレンスや問合せに対応していますが、在宅勤務などの影響により担当職員が不在の場合やお返事が遅れることがありますのでご了承ください。その他の博物館利用については、当分の間、ご来館の自粛をお願いいたします。

ウェブサイト：<http://nh.kanagawa-museum.jp/>

Twitter：[@seimeinohoshiPR](https://twitter.com/seimeinohoshiPR)



ライブラリー通信 文人たちの博物誌⑦ 小松 左京の巻

日本を沈めた男の生物学はSFではなかった！？

つちや さだお
土屋 定夫（司書）

小松左京と言えば、映画化もされた『日本沈没』や原案をノベライズした『さよならジュピター』などのSF作品を思い浮かべる人も多いことでしょう。

実際、小松はSF作家として、おびただしい作品を残しています。それゆえ、地球科学や宇宙科学に詳しい作家であるとの認識に間違いはないでしょうが、実は生物学にも大変造詣が深かったのだと教えてくれる本があります。それが今回の1冊、『はみだし生物学』です。

自然史をテーマとした月刊誌「アニマ」に1979年4月から1年間連載されたものをまとめたのが本書です。“生命はもはや「自然発生」しないか？”や“バクテリオファージはヤドリバチの夢を見るか？”などのタイトルで、毎回6ページにわたり、生物に関して、その驚くべき知識の広さ、深さを披露しています。全編を通して論じられているのは進化論です。

「アニマ」の読者向けに書かれていますので、サイエンス・エッセイという分類に入るであろうと思われるがちですが、解説を書いている植物学者の中尾佐助氏は「随筆風に書かれたこの本は」と記し、随筆風であって、随筆だとは考えていないことがうかがえます。

さらに小松を生物学ではアマチュアであるとしながらも、「生物学の驚くべき広い分野にわたって最近の研究成果を踏まえて、高度の論議をしている。私はこの本は学問的な意見で第一級のものと評価している。」と述べています。

書名こそ『はみだし生物学』となっていますが、内容的には、はみ出すどころか「どっぷり生物学」です。連載名も“生物学の「垣根ごし」に”と遠慮がちなものに小松はしていますが、逆に自信の表れのようにも見えてきます。

皆さんも一度、小松生物学の世界にどっぷりと^{ひた}浸ってみませんか？



平凡社 1980年

自然科学のとびら
第26巻2号（通巻99号）
2020年6月25日発行
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 平田大二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
編集 本杉 弥生（企画普及課）
印刷 株式会社あしがら印刷

© 2020 by the Kanagawa Prefectural Museum
of Natural History.